

## 『数の基礎概念』が育つ基礎の基礎をあなたは知っている？

「数がまだわからないんです」

「数がよく理解しているんです」

こんな質問や相談をよくいただきます。

今日はこの数に対して、見ていきましょう。

始めにお伝えしておきますが…この方法は0歳から6歳までは十分に使えます。  
是非、ご活用いただけたら嬉しいです。

= 幼児期に習得しておきたい5つのこと =

- 1) 数唱が10までできる
- 2) 大きい・小さいがわかる
- 3) 多い、少ないがわかる(1対1対応)
- 4) 3つまでの数を集合体として見ることが出来る
- 5) わける(数の等分・1対多対応)

今すぐ日常生活に取り入れましょう。

良い教育は良い家庭環境から…

- 1) 数唱が10までできる & 数字を対応している



言葉は蓄積されていきますので、年齢によって使い分けするのではなく  
良い言葉を使う習慣を身に付けてくださいね。

## 数唱おススメ法

例)

おやつ、くだものを渡すとき

「はい、イチゴ3つ、どうぞ」

「ポーロ、5つ食べましょう。」

抱っこでゆらゆら

「い〜ち、に〜い、さ〜ん」なんて声をかけながらゆらゆらしてみてくださいね。

### 要注意<<お悩み>>

よくお風呂で100までに数唱をしているんですけど、計算ができません。

これ一番多い！！100までに数唱ができて計算はできるようになりません。

ひとまず…3歳までには10までの数唱と数字が合うということに着目してみてくださいね。

100まで数唱よりも、お風呂用数字マットを指先しながら

10まで数えるほうが断然おススメ！！



## 2) 大きい・小さいがわかる=比較できるようになる

比べてみよう♪



計算に入る前に、基礎概念は入れておくべき。

習得に順序があり、大小、上下、長短、多少、など3歳までに習得できる家庭教育を目指してほしい。

すると…あれあれ？子どもが勝手に数字や数に取り組み始めるのです。

量として、数を捉えること。

数を比較してみることができないと計算はできません。

大小の比較は1歳代から理解できるようになりますよ。

## 大小おススメ遊び法



「大きな車だねー」

「小さな虫だねー」

なんて比較する言葉を使ってみてくださいね。

言葉がけのコツ

「お～お～き～い」とオーバーリアクションで伝える

「ちっさい」と身体も言葉も小さくしながら伝える。

大小からスタートすると、次第にたくさん=いっぱいなどが必要になってきますね。

「おおきい」を覚えたら、「大きなジュースが欲しい」～なんて欲しいという場面がでてきたら、チャンスです。

「たくさんね。」「いっぱいね。」なんて言葉を言い換えてみてくださいね。

ドンドン基礎概念を習得するチャンスがでてきますよ。

そんなチャンスを楽しみに待っていてください。

### 3) 多い、少ないがわかる(1対1対応ができる)

汽車があります。



汽車にうさぎをのせてみます。



数の基本です。

多い、少なりの習得が始まったことからスタートします。

3歳までに3つ、それ以上の年齢は5つ

パットみただけで判断できるようにしておくこと。

これが計算を好きにさせる大きなポイントです。

### おすすめ家庭の取り組み方

お皿を家族分と、とりわけおかずを準備

お皿に一つずつ。お子さんに分けてもらいましょう。

食事の際のお子さんのお仕事にしてくださいね。

またフォークやスプーンなど人数分配ることを日課にしてもらうのもとても良い学びになります。

家族分ではいつも同じになってしまいますので…

絵本や物語を使いながら、ぬいぐるみを見立ててみるのもお勧めです。

ぬいぐるみにひとつずつ、たまごボールを配る。

どちらが多かったのか…同じだったのか…足りないのか…

その際、賢いお母さんのポイント

「どちらが多かった?」「少なかった?」なんて質問をしてみてくださいね。

#### 4) 3つまでの数を集合体として見ることができる

数が数えられることで計算ができるようになるわけではない。

=幼児あるある=

こんな風にくつつかの飴を数える…多くの幼児は何度も同じものを数え…  
延々と数え続ける。結局いくつなのーー？笑



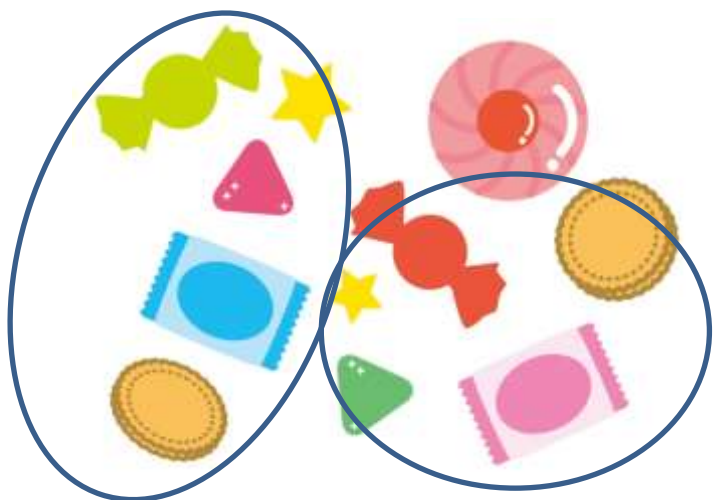
数唱ができれば数が分かると思いませんか？

どうすれば???

できたら、3つずつ、5つずつのかたまりで捉えられるようになると..  
あら簡単。

5が2つに1つ残る。

なんて、目を育てることが大切です。



## 集合体で見る目を養うおススメ遊び

「たまごボール」「ラムネ」「ぶどう」など、手渡し、お皿にのせて渡すときに「はい、3つ」「はい1つ」というように言葉にしてくださいね。  
ついつい「いち・に・さん・し…」の習慣をつけてしまいがちですが、どうせなら…。  
集合体で見るような習慣をつけてくださいね。

この小さな積み重ねがとっても重要！！

## 5) わける (数の等分・1 対多対応)

### 1 対多対応

ボーロなどを大皿にいれておき、お皿に3つずつ分けてね。とお仕事をしてもらってくださいね。  
間違えたっていいんです。  
子どもに任せることが重要です。

食事の時から揚げなどを家族のお皿に取り分けをお願いする。  
そんなことも是非、やってみてください。  
ちゃっかり自分のものが多い…なんてことが我が家も良くありましたが、  
数が理解できた証拠！！と喜んでみてくださいませ。

お皿に3つ×家族分

合計はいくつ？なんて楽しく話をしてみてくださいね。  
やらされているということにならないように…楽しんで取り組んでみてくださいね。

等分に挑戦！！



ここまでのことを地道に繰り返していれば…意外と簡単にクリアできますよ。

円なんて簡単に！！

ホットケーキやケーキ、ピザは子どもと一緒に人数にわけると。

何度もやっているうちに等分に分けられるようになります。

体験から覚える。

始めは大きさが揃いだったりしますが…実際にやってみないとね。

自分が不利な状況に追い込まれると…笑

性格に分けることに拘るはずですよ♪



\*子どもが正確に分けたいくなる秘訣！！

分けた人は一番には選ばないルール。するとできるだけ、平等に…と子どもたちは頑張ります。

是非是非、面白く楽しく取り組んでみてくださいね。

数唱ができる事で、安心しているあなた

もちろん、数唱も大切ですが…

算数を好きになるきっかけに！！

幼児期から様々な体験と自分の頭でイメージすることを繰り返し

考えることのセンスを磨いてくださいね。

詳しくお聞きになりたい方はいつでもご連絡くださいね。

中島優子